==

同志社女子大学ジェームズ会メールマガジン

2021.4.28　vol.11

　同志社女子大学ジェームズ会事務局です。この度、当会に入会いただきました皆様、ありがとうございます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

「春」と聞いて皆様が思い浮かべる情景はどのようなものでしょうか。

　私にとっては活気にあふれる新学期のキャンパス風景が何よりも春を感じさせてくれるものです。当たり前と思っていた日常がそうではないと気づかされた１年でした。今年は幸いにして春の訪れを感じることができましたが、ここにきてまた油断のならない日が続いています。皆様も十分に健康にご留意の上、お過ごしください。

○ ジェームズ会会員によるコラム　「都の春」

　今回はジェームズ会会員のＳ様に寄稿いただきました。

　今年の桜もいつも通り美しく咲き誇り、今出川のキャンパスの桜たちも御多分に洩れず美しくその姿を見せてくれました。毎朝欠かさずウォーキングに出かける私の目に映る此の春の風情が毎年の楽しみで心が昂揚するのです。多くの世の中の人もそう思うに違いないでしょう。

　そこで今回は私の思い入れの一つ「春の京都・桜」についてお話ししましょう。

　春の京都は柳桜のはんなりとした空気に彩られています。

　日本人にとって花とは桜をさします。神々しくも優しく包み込むような桜。古来、桜の「さ」は田の神の事で、春先に山から里に降りて来て木に降臨します。「くら」は神が宿る木の依り代（座する場所）と称し、これを持って「さくら」と言います。田の神が座すると花が咲きはじめ、その下で醍醐の花見遊山図の様に食べ物を広げて酒を酌み交わし余興を楽しむのは、桜に宿る神様に捧げるため。喜んでいただき五穀豊穣を願うのです。そして桜が散ると田植えが始まります。

　私は京都東山の麓、祇園町のすぐ近くに生まれ育ち、今も住まいしています。春になると子供のころから八坂神社・清水寺・高台寺・円山公園・鴨川・祇園白川に咲き誇る桜で空が見えなくなる様な白い世界を好んで歩いたり、満開の桜が散り始めて吹雪の様に舞う中を走り回ったりもしたものです。

　還暦が過ぎた今も尚、桜が咲くと私の心を擽りソワソワした気分になります。特にお気に入りは祇園白川の桜。柳と桜がこき混ざり水の流れる音が微かに聞こえてはんなりとした世界が広がります。都をどりに花見弁当、静かに風情を好む人もいれば大勢でワイワイと楽しむ人たちも京都の春は桜と共に華やかに彩りを深めます。

見渡せば柳桜をこき混ぜて　都ぞ春の錦なりける（古今集 素性法師）

　古来より人々は美しい都の春に心奪われるのです。このコロナ禍で昨年に続き今年も大手を振って花見遊山とはいきませんでしたが、朝のウォーキング、時には車の内から、子供の頃と何も変わらない春の景色を観ることができました。来年もまた「さ」の神に宿っていただき、大手を振って都の春の醍醐味を味わいながら心置き無く満開の桜を愛でたいと願ってやみません。

○ お知らせ

前年度会計報告を６月上旬にメール又は郵送にてさせていただきます。

▼お問い合わせや住所・メールアドレス等の変更・配信停止は以下までご連絡ください。

＊．

編集・発行：同志社女子大学ジェームズ会事務局（総務部総務課社会連携係内）

〒610-0395 京都府京田辺市興戸　TEL：0774-65-8860　FAX：0774-65-8461

E-mail：somu-t@dwc.doshisha.ac.jp

＊．